

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472300052
法人名	社会福祉法人 あぶくま会
事業所名	丸森町認知症高齢者グループホームやまゆりの里
所在地 (電話番号)	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1 (電 話) 0224-72-6340
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 7 月 23 日

【情報提供票より】平成20年7月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.1

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸森町国民健康保険 丸森病院 仙南病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者・職員ともほとんどが丸森町の出身であることは、馴染みの関係を築きやすいという。ホームでの暮らしを支えていくということは特別な関わりをもつことではなく、少し距離を置きながら見守り、生きていくうえでつまずきを手助けしていく。それを支援していくうえで職員の気づきが大切であるという管理者としての6年の思い、入居者が穏やかに、その人らしく一瞬一瞬過ごすことを手助けできればという職員の言葉からも、ケアの方向性が見えてくる。山あいの静かな環境ではあるが、地域密着型サービスとしての地域との交流が取りにくいことが課題である。そのためには運営推進会議の活用も工夫が必要であろう。居間での様子から、入居者がそれぞれのペースで穏やかに暮らしていることが感じられたが個室化を進めることも検討していただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題で、理念の見直しは行われ、地域との交流・重度化や終末期に向けた方針の共有は意欲的に取り組んでいる。しかし研修の受講・同業者との交流・入浴の支援が改善がされていないのは、事業所の都合によるものである。職員の研修への意欲はサービスの質の向上にも繋がることであり、受講できる体制を整えて頂きたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者がまとめ、会議や毎日の話し合いのなかで職員から意見を出してもらった。女性職員ならではの気づきや、男性入居者に対するケアの模索など、忙しさに追われるなかでの見直しのよい機会となった。前回の改善事項が改善されていない部分は法人としての方針もあると思うが、引き続き努力をしていただきたい。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1度開催されている。メンバーに地区の民生委員の参加を得、地域との繋がりが少しずつ得られてきた。前回の評価結果も報告され話し合われている。しかしホームから投げかけることに対して活発な意見交換の場となっていない。会議について家族への報告は行われておらず、改めて会議の目的や内容を説明し、要望や意見を聴く機会にも繋げていただきたい。時にテーマによってはメンバー以外の知見を有する人などの参加を得るなどして、成果が表れる会議になっていくことを期待したい。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した時に、日常の様子を写真で見てもらいながら口頭で、遠方の方には電話による報告を定期的に行っている。家族はお世話になっているという遠慮があるとホームでは感じており、面会の時など意見や要望を言いやすいよう声がけしている。家族ならではの要望に、即対応している。</p>
重点項目 ④	<p>植木市や町の花壇作り、地区の盆踊りなど少しずつではあるが地域の行事へ参加している。併設の特養のボランティアとの交流は積極的に行っているが、地域性もあるのか、認知症を理解してもらえないことも交流が進まない原因であることと、付近に住宅がないため日常的な交流は難しく、今後の課題としてあげている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価結果を受け職員全員で理念の見直しを行い、入居者に対する思い・地域との関係性・職員の意識をうたった理念を作りあげた。ホームの方向性を示す理念は、今後も事業所の状況の変化に応じて、年一回以上、現状にあった検討をしていただきたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや会話のなかで理念を具体的に話し合い、職員のヒヤリングでも、ケアにおいて意識しなければいけないものと、理念を具体化する努力が感じられた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	付近に住宅がないため日常的な交流は難しく、毎回努力目標になっている。そのなかで併設の特養のボランティアとの交流は積極的に行っている。地域性もあり、認知症をなかなか理解してもらえないことも交流が進まない一因になっており、法人・運営推進会議のメンバーでもある行政・地区の民生委員の力も借りながら、努力を続けていただきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者がまとめ、月に一度の会議や毎日の話し合いのなかで職員から意見を出してもらった。女性職員ならではの気づきや男性入居者に対するケアの模索など、忙しさに追われるなかでの見直しのよい機会となった。前回の改善事項の一部は、職員の話し合いにより改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーの一人である地区の民生委員の参加により、地域の理解が少しずつ得られてきた。前回の評価結果も報告され話し合いが行われている。しかし、ホームから投げかけることに対して活発な意見交換の場となっておらず、記録の公表も行われていない。	○	ホームのサービス向上に結びつけていくためにも、気楽に意見を述べやすくする工夫も必要なことである。家族の意見・要望を聴くよい機会でもあるので、会議の目的や内容を報告し、改善にむけた具体的な取り組みができていくような会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公設、民営の施設として運営や実情を町は十分把握しており、相談もしやすい。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪問したときに、日常の様子を写真など見てもらいながら口頭で、遠方の方には電話による報告を定期的に行っている。金銭管理の報告もあわせてしており、サインをいただいている。遠方の方もおられるので、書面による定期的な報告も考えていただきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お世話になっているという遠慮があるとホームで感じており、家族の面会時など、意見や要望を言いやすいよう声がけている。些細な家族ならではの要望に、即対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わったときの入居者のダメージに配慮し、馴染みの関係を大切に、以前のような法人内の異動も行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は振り返りを大切に、会議や日常の業務のなかで、繰り返し基本的なことを指導・助言を行っている。しかし、法人の内部研修や全体会議に出席する機会はあるが、外部研修を受講する機会はほとんどない。	○	管理者・職員とも向上心を持ち、外部研修の受講を望んでいる。運営者は職員の質の向上のためにも受講できる運営体制を整え、研修の機会を確保していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入しているものの、地域の同業者と交流する機会は少ない。	○	他の事業者との交流の場での情報交換は、日々のケアのあり方を振り返り、職員のストレス解消にも繋がる大切なことである。事業所の質を確保していくためにも同業者との連携が取れるよう、考慮していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入居することはまれである。入居後アセスメントを活用しながら、徐々に馴染んでいけるよう支援している。入居時、帰宅願望が強かった入居者には一時帰宅してもらうなど、家族の協力も得ながら対処している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所に立ったり、畑仕事・草刈りなど役割ができていく。職員は共に生活する中で些細なことでも毎日学ぶことがあるという。入居者から感謝の言葉をかけてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・希望の把握は、アセスメントを活用しながら行っているが、男性の入居者が増えたこともあり、今後の課題としている。	○	本人が何をしたいのか・どこに行きたいのか等、家族の協力を得ながら取り組んでいきたいとのことである。入居者の生活を支えるアセスメントの充実を図り、支援に繋げていただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、月1回の会議において、また昼休みなどを利用して話し合われたことも反映させ、全職員で話し合いを行い作成する。これだけはお願ひしたいという家族ならではの要望も組み込まれ、家族にコピーを渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別に期間を設定されているものは評価をしたうえで見直しを行っている。アセスメントについても気づいたことを追加してゆき、見直しに役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	十分な対応とまではいかないが、通院や墓参りなどの支援を行っている。入居者と家族が安心して暮らし続けることができるような支援をお願いしたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診になっているが、病歴によっては他の病院の受診となる。家族が付き添う場合はホームから情報を提供し、受診結果の報告を受ける。緊急の場合も協力医療機関の支援が得られる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年のサービス評価の結果を受けて、「重度化及び看取り介護に関する指針」を作成した。基本的に看取りは行わず、職員で出来るところまでケアにあたり、家族の協力も得ながらこれまで重度化に対応してきた。今後重度化に伴う意志確認書を作成し、家族・医師などとさらに話し合いを進めていく方針なので、期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は目に触れないように保管され、個人情報保護の取り扱いについては、職員は周知している。声のトーンなど職員同士の気づきや、プライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを職員は把握しており、食事や入浴の時間など柔軟に対応している。入居者の生活の流れを乱さないことは、よいケアに繋がるという思いで取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は調理担当職員が専門に行っているが、調理・後片付けなど、男女を問わず入居者も行っている。この日も畑で収穫された茄子でずんだ和えを作り、季節感のある食卓になっていた。職員も同じテーブルにつき、和やかな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人には相性のよい職員が対応し、日中の希望する時間帯に入浴できる。しかし、週2回の入浴であり、一人ひとりの意向を第一に考えた支援になっていない。	○	毎日の入浴を希望する入居者はいないということであるが、一人ひとりの習慣などよく聴いて、くつろいだ入浴ができるよう支援していただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草刈り・茶碗ふき・畑仕事・新聞の切り抜きなど、自分の仕事として行っている。時には職員が声をかけて台ふきなどしてもらうが、基本的には自発的に尊重している。それを引き出すのが職員の力量であるとも考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム独自の車はないが、併設のデイスサービスの車を利用してドライブなど出かけることもある。法人の敷地は広く、散歩には十分であり、墓参りに付き添うこともある。今後、家族との一泊旅行をしてみたいとの思いが実現できるよう期待したい。できることなら、職員の車を使用しなければいけない体制を検討して頂きたい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけておらず、入居者は自由に外出できる。職員は入居者の行動パターンを把握しており、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回法人の特養ホームと合同の避難訓練を行っている。消防も参加し、夜間を想定した訓練も行っている。非常用の備蓄は、特養で準備している。職員は、夜勤の一人勤務を併設の特養があるとはいえ不安を感じているので、引き続き実践に役立つ訓練をしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	注意をしなければならない入居者は、ケース記録に残食量を記録して注意を払っており、それぞれの入居者の水分・食事の摂取量も、大まかに把握している。毎週体重測定が行われ、法人の栄養士に献立表をチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が自宅で栽培した花や置物が飾られ、季節を感じてもらえるような工夫をしている。入居者は思い思いの場所でくつろいでおり、生活感のある居心地のよい生活空間となっている。職員の声のトーンも普通であり、テレビもかけっぱなしになっていない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすや家族の写真が飾られ、畳敷き(一部屋だけがフローリング)の部屋は、その人らしく過ごせる場所となっている。一室二人部屋になっているが、相性を考慮して入居してもらい、なんら問題はないとのことである。		